

別海町

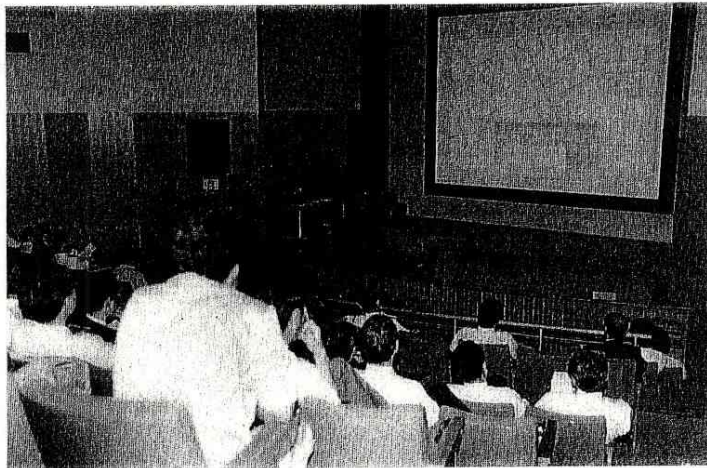
GIS(地理情報システム)の活用を事例発表 七十人が参加して道東セミナー

地域情報システム(GIS)の普及をめざす北海道GIS技術研究所(本山有里座長、本部・岩見沢市)の主催するGIS道東セミナーが、このほど別海町マルチメディア館で開かれた。

GISは地図とデータベースをリンクさせることによって、さまざまな情報を総合的に管理するシステムで、農業、土木、都市計画、税務などの分野で地理的に関連するデータの入力、格納、検索、計算、分析や表示を行う情報システム。

同セミナーには道東地区の自治体や支庁職員、土木、測量会社などの社員七十人が参加し、GISの今後の方向性や市町村におけるGIS活用などの事例発表が行われた。

このうち、別海町の磯田忠雄さん(インダ測量設計事務所)は、道路台帳、家屋図などをGIS化し、拡大や縮小、複写や着色、シミュレーションなど、自在にデータの加工や表現を発表した。

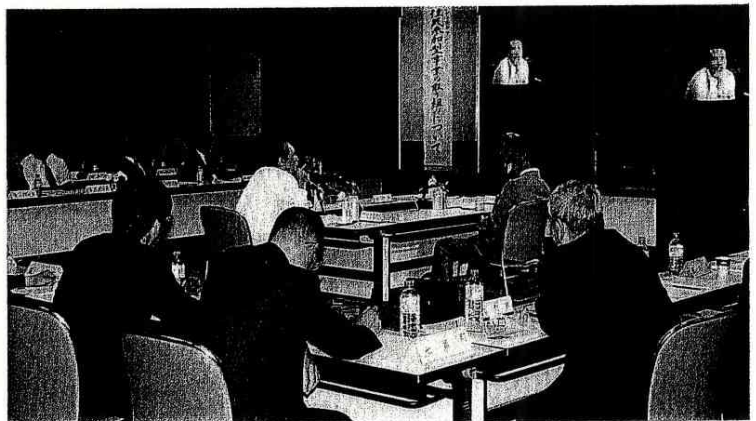


5人が事例発表

今年度の道公立文化施設協議会の自主文化事業研究会がこのほど中標津町総合文化会館で開かれた。

研修会には同内各地の文化施設職員ら約五十人が参加した。開会行事に続いてNHK情報ネットワークチーフプロデューサーの加藤和郎さんが「情報メディアと文化の独創」と題して講演、続いて「住民参加型事業の取り組みについて」と題したシンポジウムが行われた。

この中で、三重県嬉野町文化アドバイザーの中山浩男さんは、鑑賞型事業は予算を投下しても文化の発信につながらず、人づくりに貢献度が低いなどとして、町民ミュージカルを企画した経緯を説明、理事者の説得、具体的なアクションプランにふれ、「多くの人が議論し、キャスト・スタッフに



自主参加型事業のシンポジウム

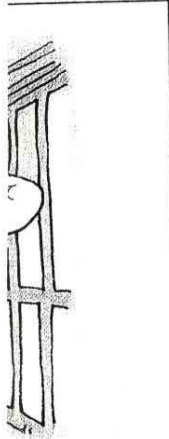
友人、親戚を巻き込んで盛り上がった」などと述べた。また、土別市民劇場代表の安川登志男さんも天塩川で開いた野外劇の取り組みを述べた。

中標津町

自主参加型事業のシンポジウム 五十人が参加して道公立文化施設協議会

別海町

図書館で古布を利用した二人展 パッチワークとアップリケの「布遊」



ス&New Life

キョー

丸 協

下地久男

2条南6丁目1番地

2-2289

2-2729